

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年2月23日(2006.2.23)

【公表番号】特表2005-526015(P2005-526015A)

【公表日】平成17年9月2日(2005.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2005-034

【出願番号】特願2003-560034(P2003-560034)

【国際特許分類】

**A 6 1 K 48/00 (2006.01)**

**A 6 1 K 35/28 (2006.01)**

**A 6 1 K 35/76 (2006.01)**

**A 6 1 L 27/00 (2006.01)**

**A 6 1 P 19/04 (2006.01)**

**C 1 2 N 15/09 (2006.01)**

**C 1 2 N 5/10 (2006.01)**

**A 6 1 K 38/00 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 35/28 Z N A

A 6 1 K 35/76

A 6 1 L 27/00 Z

A 6 1 P 19/04

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 5/00 B

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月26日(2005.12.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

結合組織を再生するため、又は結合組織の損傷、不良又は疾患を修復又は治療する薬剤を製造するための、S M A Dタンパク質又はその変異体をコードする配列を有する核酸を含む人工細胞の使用。

【請求項2】

前記細胞は成人間葉幹細胞であることを特徴とする請求項1に記載の使用。

【請求項3】

前記細胞はB M Pシグナル経路を活性化させるタンパク質を1つ以上発現すること特徴とする請求項1に記載の使用。

【請求項4】

前記S M A Dタンパク質はS M A D 8タンパク質変異体であることを特徴とする請求項1に記載の使用。

【請求項5】

臃細胞の分化を誘導する方法であって、  
前記臃細胞の分化を誘導すべく、

前記腱細胞を、S M A Dタンパク質又はその変異体をコードする配列を有する核酸を含むベクターを含んでいる細胞と接触させるステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 6】

前記細胞は成人間葉幹細胞であることを特徴とする請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記細胞はB M Pシグナル経路を活性化させるタンパク質を1つ以上発現すること特徴とする請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】

前記S M A Dタンパク質はS M A Dタンパク質変異体であることを特徴とする請求項 5 に記載の方法。

【請求項 9】

靭帯細胞の分化を誘導する方法であって、

前記靭帯細胞の分化を誘導すべく、

前記靭帯細胞を、S M A Dタンパク質又はその変異体をコード化している核酸を有するベクターを含んでいる細胞と接触させるステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 10】

前記細胞は成人間葉幹細胞であることを特徴とする請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記細胞はB M Pシグナル経路を活性化させるタンパク質を1つ以上発現すること特徴とする請求項 9 に記載の方法。

【請求項 12】

前記S M A Dタンパク質はS M A D 8タンパク質変異体であることを特徴とする請求項 9 に記載の方法。

【請求項 13】

薬剤を製造するための、S M A D 8タンパク質変異体をコードする配列を有する核酸を含む組成物の使用。